

乾いた欧州 襲った炎

山火事のフランス「火災積乱雲」発生



「恐ろしい。何もかも燃えてしまった」。山火事に襲われたフランス南西部ポルドー近郊に住む女性、ロルさんが目に涙を浮かべながら地元メディアに語った。先祖代々暮らしてきた故郷から約10キロ離れた町に避難。自宅は全焼した。火災は一時、人口約27万人のポルドーから約15キロまで迫った。スペインでも首都マドリード周辺や東部バレンシア自治州で山火事が広がった。

欧州連合（EU）によると、今年の域内の山火事は1200件以上発生し、焼失面積は今年22日時点で約25万4千ヘクタールに上った。

フランスやスペインの山火事は、温暖化を背景とした記録的な熱波で乾燥した草木が燃え、強風で一気に広がったとみられる。これまで欧州では珍しかった「火災積乱雲」がフランスで発生し、突風や落雷を引き起こして延焼が加速したようだった。風向きの予測が難しく、消火活動は難航した。

風速40メートルの強風・落雷 猛烈な熱



フランス・ポルドー近郊で消火活動をする人々＝27日（AP＝共同）

英紙ガーディアンなどによると、フランスやスペインでは今年の冬から春にかけて雨が少なく、草木が生い茂った。その後雨があまり降らず、熱波により急速に乾いたことで山火事が発生しやすい環境になったようだった。

■まるでハリケーン

フランス当局によると、今回、カナダやオーストラリアで発生例がある火災積乱雲が確認された。火災の熱で煙や水蒸気が上空へ押し上げられる現象で、突風が火の粉を運ぶ。また、ポルドー北部では落雷により、新たな火災が発生した。ポルドー市があるジロンド県の消防当局者は「まるでハリケーンに遭遇した感じだ」と語った。

英紙フィナンシャル・タイムズ（FT）は、火災積乱雲は風速40メートルを超える強風を引き起こし、消防士が近づけないほどの猛烈な熱を伴うことがあると報じた。

■史上最も暑い6月

温暖化も背景にある。欧州は1980年代以降、世界平均の約2倍の速さで気温が上昇。EUの気象情報機関によると、西欧の6月平均気温は約21度で、1991～2020年の平均を3度上回り、観測史上最も暑い6月となった。大気循環が変わり熱波が起きやすくなったとの分析もある。火災のリスクが高い時期も、これまでは1年のうち3～4カ月だったが、現在では春から10月まで続く。EUは新型の消火用の航空機を共同購入したが、納入は28年以降の予定。大規模火災への備えが十分ではなかったとの指摘もある。

英オックスフォード大の専門家はFTに対し、温暖化に伴い山火事の危険が高まっているとして、避難計画の整備や水の確保を進める必要があると訴えた。

（共同）

左の記事を読んで、次の問いに答えましょう。

- 1 空気が上昇して雲ができるとき、空気の体積と温度はどのように変化しますか。
【 】の中の語句の正しいほうを選んで、○で囲みましょう。

空気の体積は【膨張・収縮】し、
温度は【上がる・下がる】。

- 2 図の⑤のように、強い下降気流が地表に吹き降りてくる場所の地表付近では、気圧は高気圧・低気圧のどちらになりますか。
[]

- 3 火災積乱雲の発生により火災が加速するのはなぜですか。（ ）に本文中の中の語句を抜き出して書きましょう。

- ・ [①] が遠くに火の粉を運び、火災が拡大するから。
- ・ [②] によってさらに新たな火災が発生するから。

NIEワークシートのこたえ（2026年8月5日公開）

◆ワークシート「乾いた欧州 襲った炎（理科）」
2026.7.31付 夕刊 6面 解答

1 膨張 下がる

2 高気圧

3 ① 突風 ② 落雷

すてっぷあっぷ

★わたしからのひとこと！（記事についての感想や意見を1行で書いてみましょう。）

★100字シート (□にチェック)

□記事の要約

□記事に対する感想・意見

[illegible]